

信濃川大河津資料館友の会だより

臨時総会のお知らせ

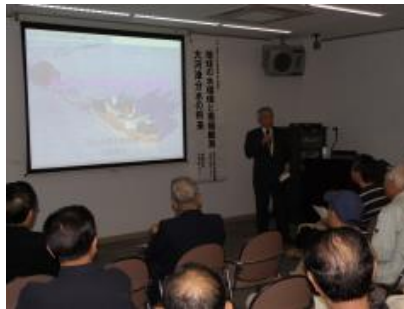
3月5日(土)に臨時総会を行います。また、当日は五百川清さんを講師に迎え、大河津分水双書第10巻の発刊に向けた講演会を行います。講演会終了後には、今年度をもって去られる資料館スタッフに感謝する懇親会も開催します。ぜひご参加下さい。また、臨時総会、講演会の詳細は別紙をご覧ください。

日時：2011年3月5日(土)
 総会 13:30~15:00
 講演会 15:30~17:00
 会場：大河津出張所
 申込：同封の葉書をご利用下さい。

イベント報告

地球の水環境と南極観測 大河津分水の将来

11月20日(土)に開催した「地球の水環境と南極観測 大河津分水の将来」では富山大学名誉教授、川田邦夫さんから日本南極地域観測隊の37次隊で副隊長を務めたときのお話をいただきました。前燕市長、小林清さんからは地域の宝である大河津分水の将来像についてお話をいただきました。



友の会活動を考える会

1月8日(土)に開催した「友の会活動を考える会」では、信濃川大河津資料館が置かれている状況を踏まえ、友の会のあり方や運営の仕方など、今後の友の会について話し合いました。



信濃川下流河川災害復旧等関連緊急事業竣工式に出席

会長 早川 典生

平成16年7月の新潟・福島豪雨により、五十嵐川、刈谷田川を含む信濃川下流域が大きな災害(7.13水害)に見舞われたことはよく知られている。それによる災害復旧事業は国(北陸地方整備局)ならびに新潟県により、鋭意進められてきたが、このたびようやく終了したことで、両機関主催の竣工式が平成23年1月13日、燕三条地場産業振興センターにおいて行われ、招待客として参列した。会は地域選出の国会議員、国土交通省、新潟県、各市町村の関係者ならびに地元業者及び一般住民など数百人が参列し、最初にこの水害で犠牲になった15人の方たちへの黙祷で始められ、式辞、祝辞、挨拶、工事報告と続いた。閉会後はアトラクションとして地元の「きらきら保育園」児童達による和太鼓の合奏、および「三条神楽保存会」による三条神楽が披露され、出席者の盛んな拍手を浴びていた。



大河津との縁

友の会会員 本間 政幸

平成16年10月の台風23号が本州横断時に、中越方面の現場へ行く機会があり、その帰路に出水中の分水路を、初めて可動堰から河口まで見て帰ることにしました。可動堰は全門全開状態で、かすかに泥臭い臭いを発した濃い茶色の洪水は、遮る物を容赦なく飲み込むような勢いで流れていました。その流れを眺め下流に向かって右岸を下りましたが、分水路は下流にいくほど勾配が急になり、しかも幅が狭くなるため、うねりは次第に強く、流速は一段と早くなり巨大なエネルギーが感じられます。さらに下ると、野積橋上流にある第二床固め下流で、轟音とともに洪水が数メートル吹き上がっている状況を目の当たりにしました。後日、そこにはバッフルピアと呼ばれる突起物があり、第二床固めから流れ落ちる水勢を弱めていることを知りますが、そこで暴れまくる洪水の光景が印象的で忘れられない記憶となっています。あれから何年か過ぎましたが、洪水のニュースや気象情報を聞くとその風景を思い出し、越後平野が守られているということを感じさせられます。(バッフルピアの構造や目的については大河津資料館やホームページで紹介されています。)

友の会も3年生になります。会員の熱心な活動状況、いろいろなイベントを開催していただいている友の会から頂く情報をいつも楽しみにし、友の会の益々の発展、会員の拡大を期待しております。



大河津分水通水100年への想い

友の会会員 菊地 剛

皆さんはご存じだろうか？2002年10月19日に信濃川大河津分水路通水80周年記念「川と河の80年ものがたり」が開催されたことを・・・

このイベントは、通水80周年を記念し、あらためて信濃川の豊かな恵みに感謝するとともに、先人の偉業をたたえ、その志を受け継ぎ、来るべき大改修事業を見据えた河川環境を築いていく出発点とするため、大河津分水沿川の分水町、中之島町、与板町、寺泊町の4町で構成する信濃川及び大河津分水路沿川整備推進協議会(当時の会長は小林分水町長)の主催で行われたイベントであります。

当時このイベントに携わった一人として、今思い出されるのは、オープニングセレモニーの中で通水100周年に向けたタイムカプセル(形状は信濃川補修工事竣工記念碑を模したもの)の除幕式があり、このタイムカプセルには4町の小学生が書いた20年後の自分や大切な人への「夢と希望のメッセージ」約3000通が詰まっています。

通水100周年目の2022年にタイムカプセルは開封されメッセージの宛先へ送られることになっているのですが、このことが忘れ去られてしまわないようにと敢えてこの機会に記しておきたいと思います。

今号の可動堰

雪の厳しい寒さから守るために、冬期間は施工場所が白いシートの仮囲いで覆われています。今年の大雪の際も仮囲いの中で作業が行われていました。桜の咲く頃には仮囲いも外され、設置されたゲートが見える予定です。



右岸堰軸から撮影
(平成23年2月8日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影
(平成23年2月8日撮影)